

会員のひろば

■ Aさんへ

南2 船越 昇（初代理事長）

Aさん、すっかりご無沙汰していますが、その後お変わりありませんか。理事在任中はいろいろご協力いただき、ありがとうございました。私は昨年夏、妻に先立たれ、しばらく落ち込んでいましたが、今ではすっかり元気を取り戻して、独身生活を楽しんでいます。

「ふるさと案内人の会」への参加は私の元気の源です。Aさんもご承知のように、案内人の会はシルバーの組織として発足しましたが、昨年7月にNPO法人になって独立しました。この1年余りの成長ぶりは目覚ましく、活動分野は観光案内から福祉、教育にまで広がり、各種機関との連携も活発で、町内外で存在感を高めています。会員の熱心な活動についていくのが精いっぱいの日々です。

「シルバーさろん」の皆さんからも多くの元気をもらっています。さろんが12年間存続してこられたのは女性会員の献身的な努力の結果だと思います。感謝し尽くせません。男性会員がもっと顔を出し、盛り上げてくれることを願っています。女性会員とおしゃべりすることは、男性にとっては素晴らしいエネルギー源になります。

近ごろ気がかりなのは、古巣・シルバーの元気の無さです。Aさんも覚えておられると思いますが、総じて会員の自立心は乏しく、万事事務局に頼りがちです。事務局には改革の意欲が薄く、会員との交流は少ない。シルバーの活性化には、会員、事務局の意識改革が必要です。両者の奮起を望んでいます。



■ ただいま剪定見習い奮闘中

馬淵 原田 卓

長年勤めた会社を定年退職後も、再雇用され働くことができました。

リタイア後はのんびりできると思いましたが、1年が過ぎると体重が増えはじめ、このままいくと体にも悪いと思い、土地を借りて野菜づくりを始めることにしました。野菜づくりは失敗の連続。でも畑の先輩方のアドバイスのおかげで、今では新鮮な野菜が食べられるようになりました。

シルバーの入会は、たまたま、家内が知り合いの方に庭の桃の木の剪定を気軽をお願いしたことがきっかけです。その年の10月に、かしのき苑に剪定班のお手伝いに行ったのが始まりで、シルバー人材センターに入会して、約1年が経ちました。今は縁あって、剪定の見習いをやっています。現役時代の仕事とはまったく畑違いの分野で、草花・庭木の名前が皆目わかっていません。そのため、今も緊張の連続です。

剪定班に入って1か月が経ったころ、慣れない作業と緊張で体調を崩して帯状疱疹になり、完治まで1か月かかりました。帯状疱疹後、今度は2週続きで蜂に刺されて両手両腕が腫れたり、梯子から落ちたりと、災難が続きました。

剪定班に入った当初は剪定の仕事を軽く考えていましたが、奥が深く、今も班長や先輩方のアドバイスをいただき、足手まといにならないように、日々頑張っています。

今回、シルバー人材センター主催の「樹木剪定講習」に参加しました。日程は4日間の短い講習でしたが（実習は1日）、何もわからない私には、中身の濃い内容でした。

「剪定の基礎知識ガイド」を研修科目別に細かくわかりやすく分けて講義をしていただきました。「まず一番に覚えることは、木の名前、次に木の特徴・特性を知ること」と、最終日の締めには先生が強調された言葉は、あたりまえのこととはいえ、今私にいちばん欠けている課題です。

これからも、興味をもって技術の向上とともにこのことを克服していきたいと思っています。また顧客満足度を高めるためにも、依頼された方に喜んでいただけるようになりたいものです。

